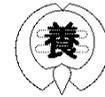


12月号

ハニ養だより



青森県立八戸第二養護学校
平成30年11月26日

校長だより



「人権週間」を考える

校長 上澤 司

日本では、毎年12月4日から12月10日までの一週間を「人権週間」と呼んで「人権」について考える機会にしています。

20世紀には、世界を巻き込んだ大戦が二度も起こり、特に第二次世界大戦では人権侵害、人権抑圧が横行しました。そのような経験から、人権問題は国際社会全体にかかわる問題であり、人権の保障が世界平和の基礎であるという考え方が主流になってきました。

そこで、昭和23年（1948年）12月10日、国連第3回総会（パリ）において、「すべての人民とすべての国とが達成すべき共通の基準」として「世界人権宣言」が採択されました。これを記念して、12月10日を「世界人権デー」とし、国際連合に参加する国は、人権に関する行事をしよう決められました。日本も、国際連合に加盟しているので、12月10日を最後の日とした一週間を「人権週間」と決め、人権に関するさまざまな行事を行い、人権について考える機会としています。また、平成30年（2018年）の今年、世界人権宣言70周年の節目の年でもあります。

「人権」って何？と改めて問われると、難しいことのように感じますが、私は、「人権とは、自分も大切にすし、周りの人も大切にすということ」だと考えます。自分も、友だちも、家族も、子どもも、お年寄りも、どんな人種の人も、障害のある人も、性別に関係なく、皆大切にすということです。

最近、学校や社会でのいじめの問題や子どもの自殺、虐待、体罰の問題など、ニュースで流れます。いじめや虐待、体罰は、決してあってはならないことです。許されないことです。なぜなら、一人一人が人間として大切にされなければならないからです。子どもたちは、家族や友だちと仲良く遊んだり、勉強したりしながら成長します。それを誰からも邪魔されてはいけません。毎日が楽しく生活や勉強のできる学校にしたいです。

